

増補改訂版

絵で見てわかる
はじめての
古典

三
卷

監修・田中貴子（甲南大学文学部教授）
石井正己（東京学芸大学教育学部教授）

枕草子



◆ 『枕草子』は、こんな本

『枕草子』が書かれた 平安時代ってこんな時代 4
『枕草子』を書いた 清少納言ってこんな人 6

原文にトライ！ 声に出して読んでみよう！① 春はあけぼの。やうやう 10

原文にトライ！ 声に出して読んでみよう！② 夏は夜。月のころは 12

原文にトライ！ 声に出して読んでみよう！③ 秋は夕暮。夕日の 14

原文にトライ！ 声に出して読んでみよう！④ 冬はつとめて。雪の降りたるは 16

清少納言研究① わたしがかわいいと思うもの 18

清少納言研究② 胸がドキドキ、わくわくするもの 20

清少納言研究③ わたしのきらいなもの 22

清少納言研究④ (まんが)わたしの宮仕えデビュー 24

清少納言研究⑤ (まんが)女の子だって、バリバリ宮仕え！ 26

清少納言研究⑥ (まんが)なぞのわかめ事件 28

原文にトライ！ 声に出して読んでみよう！⑤ 三月三日は、うぶうぶ 30

原文にトライ！ 声に出して読んでみよう！⑥ 虫は鈴虫。蛸 32

原文にトライ！ 声に出して読んでみよう！⑦ 雪のいと高う降りたるを 34

時代背景研究① 貴族はどんな着物を着ていたの？ 36

時代背景研究② 貴族の生活って、どんなもの？ 38

時代背景研究③ 貴族の子どもたちの暮らしは？ 39

時代背景研究④ 貴族の家ってどんなの？ 40

時代背景研究⑤ 貴族は何をして遊んだの？ 42

時代背景研究⑥ 貴族は何を食べていたの？ 44

時代背景研究⑦ 貴族の一年はどんな感じ？ 46

時代背景研究⑧ 貴族の不思議な習慣 48

■ 古典であそぼう

「いとおかし」を使ってみよう 50

「わろし」を使ってみよう 51

襲の色目を作ってみよう 52

わたしの「春はあけぼの」を書いてみよう 54

増補改訂版

絵で見てわかる はじめての 古典

枕草子

三巻



コラム

くもった鏡に 胸がときめくのはなぜ？ 21

「奥さま」の語源 39

トイレはなかった！ 41

ペットも人気があった！ 43

デートのときは、 44

ものを食べない!? 44

夏のスペシャルメニュー 45

「けずり氷」!! 45

出勤、うたげ、 47

お祭り見物には、 47

自慢の愛車で出かけた 47

『枕草子』は、こんな本

今からおよそ千年前に、
清少納言という女性が書いた
随筆（エッセイ）集です。

平安時代を代表する二人の女性作家といえば、清少納言と紫式部です。紫式部は『源氏物語』という、宮中を舞台にした物語を書き、清少納言は『枕草子』という、宮中で暮らす女性の目を通した随筆（エッセイ）を書きました。『枕草子』は現在日本に残っている随筆の中では一番古いものです。

随筆というのは、その人が見たことや経験したことなどを心のおもむくままに、自由な形式で書いた文章のこと。もちろん平安時代にそういった分類があったわけではなく、清少納言も自分が随筆家（エッセイスト）であると、思っていたわけではありませんが、清少納言は短く歯切れのよい文章で、身の回りのさまざまなものごとについて、自分の思いを率直に書き表しています。

**宮中の様子や貴族の生活、
自然の美しさと、それを愛する気持ち、
時代が変わっても変わらないものがたくさんあります。**

『枕草子』は、約三百の段（章）から成り立っていて、その内容は、自分の好きなもの、きらいなものなどを書いた「ものづくし」と、日常生活や四季のことを書いた「随想」、そして自分が仕えていた宮廷社会を書いた「回想」の三つに分けられます。すぐれた知性ときらめく感性をかね備えた清少納言は、日常生活や自然、周囲の人々などをするどく観察して、生き生きとえがいています。それは美しく、ときにおかしく、ときに厳しく、千年前の日本人と現代のわたしたちの、ちがいやよりも共通点のほうをたくさん感じさせてくれます。そして、それが千年もの間、『枕草子』が読みつがれ、愛されてきた秘密なのかもしれません。

江戸天明年間に公家の柳原紀光が筆で書き写した「枕草紙」の写本。
（西尾市岩瀬文庫蔵）



「草子」は紙を束ねてとした現代でいうノートのこと。「草紙」や「双紙」とも書かわ。「枕」の意味はいさゝらあって、はっきりとはわかってないの

「草子」とはなんですか？



原文に
トライ!

声に出して読んでみよう! ①

春はあけぼの。

やうやう(よ)しろくなりゆく山ぎは(わ)、

すこしあかりて、

紫(むらさき)だちたる雲のほそくたなびきたる。

どんな意味?

春は夜明けがいい。

だんだん夜が明けていく

山ぎわの空が、

少しだけ明るくなって、

紫(むらさき)がかった雲が、細く長く

ただよっているのがすてき。

単語チェック

あけぼの。夜が明けて明あけ
なつた。

山ぎわ。山の稜線(りやうせん)に接する
ところの「山」のふもと。

わたしがかわいいと思つもの

うつくしきもの



ひな遊びの道具

紙製または土製の小さい人形と、人形用の小さな家具や食器。



顔をかしげてものを見る

*あまそぎの女の子

*あまそぎ●肩や背中で切りそろえた少女の髪型。おかつばに近い。



池からすくい上げた
すごく小さな蓮の葉っぱ



あやしているうちに
うでの中でねむってしまう子ども

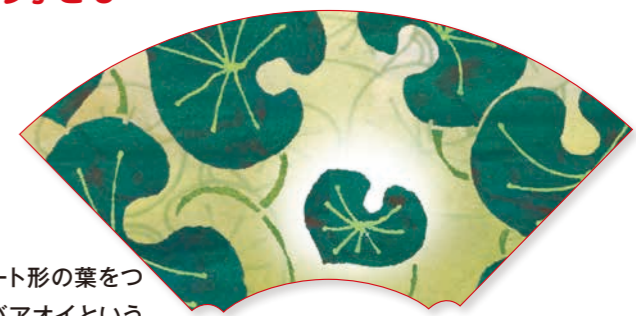


殿上童

宮中に奉仕している貴族の子ども。



瓜にえがかれている子どもの顔



*葵●ハート形の葉をつけるフタバアオイという植物の名前。

とても小さな葵



ねずみの鳴きまねをすると
寄ってくる子すずめ

うつくしきもの 瓜にかきたるちこの顔。
雀の子のねず鳴きするにをどり来る。(中略)
雛の調度。蓮の浮き葉のいと小さきき、池よ
り取りあげたる。葵のいと小さき。何も何
も、小さきものは、みなうつくし。

小さいものは
みんなかわいい!?

清少納言は、「うつくしきもの」というタイトルで、自分の身の回りにある、愛すべきものごとについて書いています。

「うつくし」は、現代語の「美しい」ではなく、「かわいい」にあたる言葉。清少納言は自分だけの（あるいは平安貴族が感じる）「かわいい」をたくさん見つけています。

なかには、「あやしているうちにねむってしまう子ども」や、「ねずみの鳴きまねをすると寄ってくる子すずめ」など、現代に生きるわたしたちが想像しても、「かわいい」と感じられるものもあります。

また、「池からすくい上げた蓮の葉」や「ひな遊びの道具」などもかわいいものとして挙げられ、最後に「何もかも、小さなものはみんなかわいい」としめくくっています。小さなものを、思わず「かわいい」と感じる気持ちは、今も昔も変わることはないのですね。

どんな意味? かわいいなあ、と思うもの。瓜にかいてある子どもの顔。「ちゅっちゅっ」と、ねずみの鳴きまねをすると、おどるようによって来るすずめの子。(中略)ひな遊び(人形こっこ)の道具。池からすくい上げたすごく小さな蓮の葉っぱ。とても小さな葵。何もかも、小さなものは、みんなかわいい。

なぞのわかめ事件



清少納言の家にて



後日。清少納言の家にて



雪のいと高う降りたるを、
 例ならず御格子まゐりて、
 炭櫃に火おこして、
 物語などしてあつまりさぶらふに、
 「少納言よ。香炉峰の雪いかならむ」
 と仰せらるれば、
 御格子上げさせて、
 御簾を高く上げたれば、笑はせたまふ。
 人々も「さる事は知り、
 歌などにさへうたへど、
 思ひこそよらざりつれ。
 なほこの宮の人にはさべきなめり」
 と言ふ。

どんな意味?

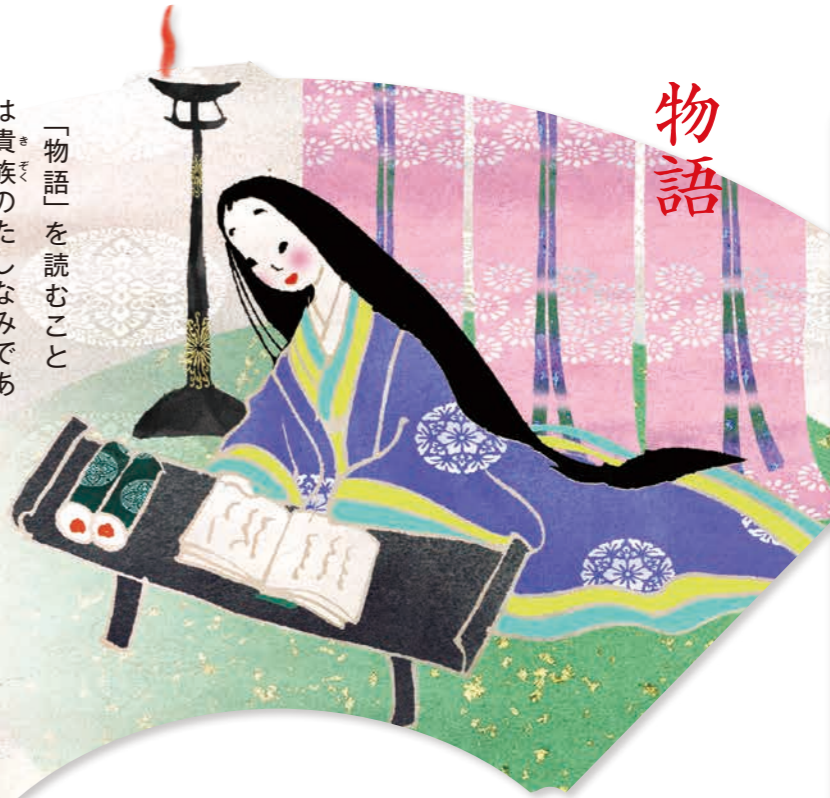
雪がとても高く降ったのに、いつもとちがって格子をお下ろしして、炭櫃に火を起こして、話などをして集まってひかえていると、(中宮さまが)「少納言よ、香炉峰の雪はどうかしら」とおっしゃるので、(わたしが)格子を上げさせて、御簾を高く上げたところ、(中宮さまが)お笑いになる。ほかの人たちも、「そついう漢詩があるのは知っているけれど、そんな気の利いた答え方は思いつかなかった。さすが中宮さまにお仕えするのにふさわしい人ね」と言う。

単語チェック

- 格子 ● 柱の間にある戸。
- まゐる ● して差しあげる。
- 炭櫃 ● いろり。
- さぶらふ ● そぼ「ひかえる」。
- 香炉峰の雪 ● 白楽天の漢詩の一節。
- 御簾 ● すだれ。
- さへき ● ふさわしい。

貴族は何をして遊んだの？

物語



「物語」を読むことは貴族のたしなみであり、楽しみでもありました。中国から来た漢字から、日本独自の「平仮名」が作られたこの時代には、「竹取物語」「伊勢物語」「宇津保物語」「土佐日記」「蜻蛉日記」ほか、たくさんのお話や日記が生まれました。

囲碁・双六・偏継

囲碁は女性にも人気の遊びでした。双六は、今のものとはちがいで、白と黒のコマと、さいころを使って遊ぶものでした。偏継は、漢字の偏に「つくり」をくっつけて文字を完成させる、パズルのような遊びです。



つれづれなくさむもの
碁。双六。物語。

どんな意味？ 所在なさ(退屈)がやわらぐもの。囲碁。双六。物語を読むこと。

もの合わせ



二組に分かれて、さまざまなおもちゃの優劣を競う。○「合わせ」という遊びがたくさんありました。集めた貝の美しさやめずらしさを競う「貝合わせ」、和歌の出来栄を競う「歌合わせ」のほか、「絵合わせ」「香合わせ」「花合わせ」「鳥合わせ」「虫合わせ」などもありました。

ひな遊び

小さな女の子には、お人形遊びは人気がありました。紙や土で作られたお人形に、着がえをさせたり、ものを食べさせるまねをして遊びました。お人形には、かわいい家具やさまざまな道具類もセットになっていて、これが現代のおひなさまの人形や飾りの原型になりました。



けまり

けまりとは、八人の男性が一つのまりを順番にけて、次の人にわたす遊びです。ける回数は一三回以上、使っているのは足の甲だけ。勝敗はなく、なるべく長く続くよう、次の人が



けりやすい球を送ります。足を高く上げて足の裏を見せたりするのは、下品とされていました。

コラム

ペットも人気があった！

一条天皇の飼いねこは、位をいたでいて「命婦(女の殿上人)さま」と呼ばれ、専属のお世話係もいました。犬も飼われていましたが、ペットとしては、ねこのほうが人気があったようです。

また輸入されたおうむを飼ったり、すずめの雛を卵からかえして育てることも人気がありました。

平安時代に
タイムスリップした
気分で使ってみてね

「いとおかし」を 使ってみよう

秋は夕暮。(中略)ま
いて雁などのつらねた
るが、いと小さく見ゆ
るは、いとをかし。

あなたたちの時代の言葉で
いえば、「秋は夕暮れ時がい
いよねー(中略)まして雁な
んかが一列に並んで飛んで
るのが、とっても小さく見え
るのは、す〜くいい感じー」
ですね



「わろし」を 使ってみよう

冬はつとめて。(中
略)屋になりて、ぬる
くゆるびもていけば、
火桶の火も、白き灰
がちになりてわろし。

今の言葉では、「冬はやっぱり、す〜く
寒い早朝が冬らしくていい。(中略)で
も屋になると、朝の寒さはゆるんでく
るし、火桶の中の炭も白い灰になっ
てしまうし、もうあんまりいい感じとは
いえないわねー」って、感じがしちゃう。



「いとおかし」はどんな意味?

「おかし」の文学」ともいわれている『枕草子』には、作者清少納言が「おかし」と感じるものや人、風景や音などが、たくさん登場します。

いろいろな場面で使われる「おかし」は、「よい」という意味ですが、現代のわたしたちが使う「いいねー」という言葉と同じで、その場面に応じて「うまいね」「すごいね」「きれい」「かわいい」「おもしろい」「感動した」「好きー」など、いろいろな意味がふくまれています。

「いとおかし」はどいつ使える??

「おかし」の前についている「いと」は、「とても」「す〜く」あるいは「マジ」のようになり、「おかし」の意味を強める言葉です。「メッチャ、いいよね」「マジ、やばくな?」などと言うと、たいてい先生やおうちの人に注意されてしまいますが、「いとおかし」は、そんなときの「感動して、思わず、だれかに言いたくなる」というような意味。「めっちゃめっちゃかわいいー」「メッチャ、かわいいー」と言いたい場面で、まったく同じように使うことができます。

「わろし」はどんな意味?

それに対して「わろし」は「よくない」「悪い」「いやな感じ」「かっこ悪い」というようなときに使われます。

「わろし」はどいつ使える??

清少納言は「春はあけぼの」で、春夏秋冬のさまざまな物事を「おかし」「いとおかし」「言ふべきにもあらず(わさわさ言つまでもない)とたくさん数え上げておいて、冬の最後でいきなり「わろし」という、落ちをつけています。

否定的な言葉は、人に対して使えば人いやな気持ち(「わろし」)にさせてしまうことがあります。自分の失敗談で人を笑わせたときなどに、「いとおかし」と組み合わせると最後に「わろし」でしめるなどすると、会話をおもしろくできますね。

やってみよう!

Aさん「この服どう?」

Bさん「いとおかし」

リレーを走っている
○○君って、
いとおかし!

ケーキにちよこんと
のっかっつる(ごさけ)は
いとおかし。

スーパーのお菓子売り場は
いとおかし

○○さんの洋服のセンスはいと
おかし。でも、ときどき、ほく
にもすすめるのはごちわろし。

三歳の弟と散歩に行くのは、い
とおかし。でも、ときどき途中
で転んでしまつてわろし。

夕食を運ぶのを手伝ったら、お
盆をひっくり返した。スープは
こぼれるし、お皿は割るしでわ
ろし。

お母さんのおこった顔、
いとわろし

襲の色目を 作ってみよう

十二単の襟元と袖口の カラーコーディネート

宮廷に仕える女性の正装は、十二単。何枚もの袷を重ね着して、襟元や袖口、裾からさまざまな色が少しずつ見えるようにするのが、この時代のおしゃれ、「襲」でした。季節の移ろいを先取りして表現するのが襲の基本。そのため襲には、春には「紅梅」「桜」、夏は「杜若」「撫子」、秋は「桔梗」「朽葉」、冬なら「雪の下」「枯野」「氷」などの名前がつけられていました。



もし十二単を着るなら？ 襲の配色を考えてみよう

それぞれの襲には、決められた配色があるわけではなく、「紅梅」なら紅梅をイメージさせる自分だけの色の組み合わせを考えたいです。濃淡のグラデーションだけでなく、反対色を使ったり、ところどころに濃い色を混ぜたりもしました。おしゃれを競う女心は昔も今も同じ。袷を重ねる枚数は、どんどんエスカレートして、ついには二十枚も重ねる人が出てきました。それで、藤原道長の時代(清少納言の時代)に「袷は五枚」と定められました。さて、あなたなら、どんな名前の襲を、どんな色で表現しますか。

やってみよう！

1 まずは襲の名前を決めよう

わたしは「お花屋さんの襲」を作ろう

わたしは「クリスマスの襲」にしよう



2 その名前からイメージする色を選び出そう

わたしたちだって洋服の色の組み合わせに気を使ってるよ

えーと、赤でしょう？
ピンク、紫、白、それと黄色かなあ



3 配色(色の順番)を決めて、色をぬろう

最初が赤、次がピンク、そして紫がきて、最後が白かなあ……



4 その色が連想できる、オリジナルな襲の名前や色の名前をつけよう



わたしが将来なりたいと思っている、お花屋さんをイメージしました

ぼくは、サッカーが大好きだから、ユニフォームに使う色を考えようかなあ



大好きなクリスマスの季節をイメージしてみました



平安時代に使われていた色(一部)

	韓紅色 (からくれない)
	茜色 (あかね)
	薄紅色 (うすくれない)
	撫子色 (なでしこ)
	赤朽葉色 (あかくちば)
	黄朽葉色 (きくちば)
	支子色 (くちなし)
	枯色 (かれ)
	水色 (みず)
	藤色 (ふじ)
	紫苑色 (しおん)
	山鳩色 (やまばと)
	桔梗色 (きぎょう)
	瑠璃色 (るり)
	杜若色 (かきつばた)

聖夜